

ユニセフ T・NET 通信

2012 AUTUMN

No.52

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

都市に生きる
子どもたちの実態

「世界子供白書2012」からの報告

現在、世界の人口の半分が都市で暮らし、今後も都市部の人口は増えていくと予想されています。富、仕事、投資を引き付ける都市部での生活は、農村部での生活と比較して恵まれているように見られがちですが、実際には都市部に暮らす貧しい人々の多くが、深刻な問題に直面しています。「世界子供白書2012」では、世界中の都市部で、困難な問題に直面する子どもたちに焦点を当て、都市環境の中で子どもたちの権利をどう確保するかを提言しています。



©UNICEF/NYHQ2009-1449/Wurzel
洪水によって溜まった泥と水に対処する住民たち(フィリピン)

都市の子どもたちの権利と課題

世界の都市部に暮らす人口は毎年、約6,000万人ずつ増えており、2050年までには10人のうち7人が都市部で暮らすようになると考えられています。特に、人口増加が著しいのはアジアとアフリカです。(P.2【図1】参照)このような都市の人口増加の約60%を子どもたちが占め、現在、およそ10億人以上の子どもたちが都市部で暮らしています。

都市部と農村部で生活する子どもたちを比較した場合、5歳の誕生日を迎えられる子どもの割合や改善されたトイレを利用できる子どもの割合などの指標において、都市部の方が良い結果が出る傾向にあります。しかし、都市部の多くの人々は、貧困のために社会から疎外された状況で暮らしています。現在、都市部で生活する人のおよそ3分の1はスラム状態で暮らし、アフリカではその割合が60%を超えています。そして、2020年までに、およそ14億人がスラムなどの劣悪な環境で暮らすようになると予測されています。貧困層が直面している困難は、非合法的な状況を含んでいたり、意思決定の際に声が届きにくかったり、

確実な居住期間や法的保護が得られていないなどの複雑な要因によってさらに悪化します。また、ジェンダー、民族、人種、または身体的障害を理由とする差別によって社会から疎外される危険はますます高まります。

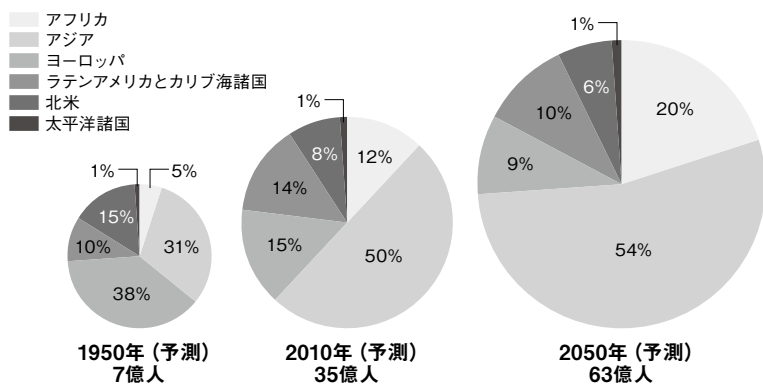
都市環境の中で暮らす子どもたちは、子どもの権利条約や他の国際文書で認められた市民権を持っています。こうした権利には、生存する権利、成長する権利、虐待、搾取、および差別から保護される権利、家庭的、文化的、および社会的な生活に参加する権利が含まれています。にもかかわらず、子どもたちは

「都市部」とは？

都市部の定義は国によって異なりますが、以下の項目のうち1つ以上を満たすものとされています。

- ① 行政の設定基準または政策的境界
- ② 最小人口規模 (通例は2,000人)
- ③ 経済機能、産業構造が主に農業でない
- ④ 舗装道路、下水施設など都市の特徴を有する

【図1】1950年、2010年、2050年（予測）の世界の都市人口と地域別割合



出典：UNDESA人口局「世界子供白書2012」P.9掲載



©UNICEF/NYHQ2009-0609/Noorani
ソーシャルワーカーから粉末微量栄養素を受け取る母親
(バングラデシュ)

さまざまな権利の侵害に直面しています。例えば、都市部の3分の1以上の子どもたちは出生登録がされていません。公的な身分証明がないと、子どもたちは必要なサービスへの機会を失うこととなります。水やトイレなどインフラが整備されていない都市のスラムでは、密集した不衛生な居住環境のために伝染病感染の危険は高く、大気汚染や交通事故による傷害も子どもの健康にとって大きな脅威です。都市は、貧富の差が大きく、また、避難民、少数民族、働く子どもなど多様なグループが存在する場所です。経済危機、自然災害など厳しい社会情勢や環境の変化が子どもたちへ及ぼす影響は大きく、都市の子どもが適切な教育を受け、将来、就業機会を得ることも難しくなっています。

子どもたちが安心して暮らせる都市を目指して

都市に暮らす子どもたちのニーズと権利を満たすために、以下の5つの取り組みの必要性が提言されています。

- ①都市の貧困と排除への理解
都市の子どもたちの状況と問題を正確に把握するために、信頼性の高いデータと分析が不可欠です。特定の地域や世帯調査の実施を拡大するとともに、貧困が都市環境で子どもにどのような影響を与えているか、なぜ世代をこえて続くのかを理解するためには、問題へ取り組む支援への評価も必要です。
- ②誰もが社会の一員となる世界（インクルージョン）の実現に向けた障壁の除去
サービスの利用や法的保護、安心して住み続けられる保証などを享受できない障壁となっているものを取り除かなければなりません。例えば、限られた所得や交通手段への対策として、使用料金の廃止やサービス利用への働きかけなど、対象を絞った、公平性を高める政策が求められます。
- ③子ども最優先の政策
子どもたちの幸福は、環境によって大きく左右されます。あらゆる状況にある子どもたちのニーズと優先事項を反映した都市計画が実行されなければなりません。そして自治体は、公平

- 性と人権への責任を持って事業を実施する必要があります。
- ④貧困層と行政機関とのパートナーシップの促進
貧困に苦しむ人々が都市開発と統治に関わるように取り組む必要があります。そして、子どもと青少年が都市計画へ積極的に参加し、意見を述べ、尊重されることで公平な都市を築いていくことに繋がっていかなくてはなりません。
- ⑤子どもたちのための協働
地域から社会まで、市民社会から公共部門・民間部門まで、あらゆるレベルの関係者たちが子どもの権利の実現に貢献する都市環境を作るために努力しなければなりません。子どもたちの声を都市計画に届かせるためには、非政府組織や国際機関の担う役割もますます重要です。

本書は、子どもたちの権利を実現するために、政府、自治体、国際組織が統計の平均値の背後にも目を向け、多くの子どもたちに厳しい生活をもたらしている都市の貧困と不公平性の解消に取り組むことの必要性を訴えています。

多くの子どもたちが都市で生まれ、成長していく中、公平性は、都市で暮らす子どもたちのあらゆる取り組みにおける指針であるべきです。すべての人にとって、より公正で温かく育む力のある都市や社会を作るという大きな目標のためには、まず子どもたちへの取り組みから始めてゆくべきであると結んでいます。



「世界子供白書2012」のご案内

「世界子供白書2012」をご希望の方は、下記までご請求ください。
1部まで無料、2冊目以降は、1部230円と送料のご負担をお願いいたします。

お問合せは 学校事業部へ
TEL: 03-5789-2014 FAX: 03-5789-2034
E-mail: se-jcu@unicef.or.jp